

## 海外安全官民協力会議 第十一回幹事会開催結果【概要】

1. 開催日 平成17年 7月29日 外務省会議室

2. 出席者 幹事会メンバー 19名  
オブザーバー 2名  
外務省 八幡海外邦人安全課長  
木村邦人テロ対策室長他8名

### 3. 議事要旨

#### 議題1 IC旅券等について

(1) 外務省旅券課よりIC旅券等について説明した。

日本人は短期の米国渡航では査証免除になっているが、9.11テロを受けて一昨年の8月頃から入国審査が厳しくなり、査証申請者への面接が開始され、さらに米国に到着した旅客からの指紋採取も始まった。

日本国内で発行されている旅券は「機械読取式旅券」(MRP)であるが、多くの在外公館では「非機械読取式旅券」(非MRP)が発給されている。本年6月26日以降、非MRPで入国しようとする旅客に対し、米国は査証免除しない措置を既に講じており、現に航空会社から搭乗を拒否されたという事例や苦情も届いている。

本年10月26日以降米国に入国する旅客は、MRPに加えてデジタル方式の写真(日本の旅券はMRPであれば全てデジタル方式なので問題はない)でなければ、査証が必要となる。また、来年10月26日以降はIC旅券が必須となるが、現在MRPを現在所持している者については、その旅券の有効期限までは当該旅券の使用が可能であり、来年10月26日以降も問題なく米国に入国できる。

現在は入国審査官が目視により旅券所持者の顔を確認しているが、IC旅券が導入されれば、旅券所持者の顔を機械的に識別し、より精度の高い不正出入国防止を実現することができる。なお、我が国のIC旅券については、現在鋭意開発中であり、来年春の発給開始を予定している。

手数料は5年旅券、10年旅券とも現行に対し1,000円の値上がりとなる。

#### 議題2 西側権益を標的としたテロ及び治安情勢について

(1) 外務省邦人テロ対策室より西側権益を標的としたテロ及び各国治安情勢につき説明し、意見交換を行った。

<外務省よりの報告>

最近のテロ事件の傾向としては、テロ組織が分散化していること、ソフトターゲットが狙われる傾向にあること、爆弾事件が多発していることが挙げられる。

特に今後は、西側諸国が直接的なターゲットとなる、もしくは第三国における西側権益が狙われることが懸念される。同時に、今回のロンドンにおける連続爆発事件のように、観光地や公共交通機関が狙われるケースの再発も懸念される。これまで、ロンドン、スペイン等の欧州地域、イスタンブール、エジプト等の中東地域において西側権益へのテロ事件が発生している。こうした傾向を踏まえ、企業レベルでの警戒の強化に加え個人レベルでも対策を講ずることが重要となってきた。

インドネシア、エジプト、トルコ、マレーシア、アフガニスタン、ロシア、カンボジアにおけるテロ・治安情勢について説明。

最近爆発事件が増えていることを踏まえ、爆弾テロに関する注意喚起を内容とする広域情報を発出した。ロンドンにおいては、警察による注意喚起等の情報収集を心掛けること、中東諸国等、観光地では、安全なホテルを選ぶこと、ホテルの入り口等に留まらないこと、夜間、特に深夜の外出を避ける等の注意が重要である。

#### <メンバーよりの報告>

テロ事件多発地域においては、現地代理店との緊密な打ち合わせや宿泊先の部屋の位置などに注意している。また、現地ガイド、運転手に対する指導も行っている。

旅行客が自由行動を行っている最中に、大規模な事件等が発生すると、その安否確認は困難を極める。現状では、旅行客から事前に自由行動時の行程をできる限り把握することにより対応している。

#### <質疑応答>

ロンドンにおけるツアー催行の注意事項として、強固な連絡体制を確立し、現地情勢に応じたツアー内容の組み替えを行った他、公共交通機関の利用を控えてタクシーの利用を促し、また、公共交通機関を利用する場合においてもラッシュアワー時の利用を回避し、駅での滞在時間を可能な限り短縮する等の安全対策を行った。

トルコにおける連続爆発事件以降、市場の観光をしばらく控え、ターゲットとされる可能性が比較的低いと考えられるモスクの観光に振り替える等の措置を講じた。また、なるべく郊外のホテルを利用し、建物の上層階の部屋を手配した。

最近のテロは観光客を無差別に狙ったものもあるため、被害に遭うかどうかは単に確率の問題と考える。

米国における同時多発テロ以降、海外旅行にともなうリスクの大きさは激変した。旅行業界の役目は、このようなリスクを認識した上で、如何に安全な旅行プランを提供するかという点にあると考える。

企業の場合、安否情報を在外公館と双方向に交換し合うことは、当然為すべきことと考えている。一般旅行者に関しても、自己あるいは家族等から確認された安否情報を速やかに在外公館等に連絡するようになれば、外務省の負担も相当軽減されるものと考えている。

### 議題3 海外勤務者及び出張者の突然死の予防について

メンバーより海外勤務者及び出張者の突然死の予防につき発表を行った。

突然死に関しては、過度の無理をしない、させない、体内から出た水分は即座に補給する等、自分自身をコントロールすることにより、ある程度防止できる。また、特に夏季は熱中症に罹る危険性が高いが、これに対しては、水分補給を欠かさないことが何よりも重要である。

基本的なことだが、感染症対策を含む海外での健康管理は、バランスの良い食事と定期的な運動により病気に対する免疫力を高める、外出から戻った際、手洗い、うがいを励行する、生水、生ものに注意する、防虫（特に蚊）対策をする、定期検診を受診し、病気の早期発見、早期治療に努めることが何よりも重要であるので留意願いたい。

出張中は緊張状態にあり、そのような状態で接待等に対応し、過度に飲食を行うことには危険が伴うことに留意願いたい。

#### 4. その他

次回開催日

平成17年9月30日（金）15：00～17：00

（於：外務省・会議室）

以上